

## 「途方もない天文現象」

地球よりも内側の惑星(水星と金星)は、ごく稀に太陽の手前を通過することがあります。「内惑星の日面通過」といいます。最近では、2012年6月5日に、金星の日面通過がありました。2012年といえば、あの金環食が見られた年です。残念ながら、この日の東京は曇りで、あまりいい写真は撮れませんでした。



「金星の日面通過」 2012年6月5日 お茶の水女子大学構内 撮影; C. Tanaka  
太陽の手前の「黒い点」が金星です。「金星による小さな日食」とも呼べる現象です。



地球から見た日面通過は、水星と金星、それに月にしか見られません。月の場合は「日食」が観測されます。「日食」は火星面でも観測可能です。左の写真は火星探査機「オポチュニティ」が2004年3月10日に撮影した、**衛星「フォボス」の日面通過**です。(NASAのホームページより) フォボスはジャガイモのような形なので、このような日食になるのです。遠い惑星で起きる天文現象・・・これは一度見てみたいですね。

しかし、これで驚いてはいけません。地球よりも外側の惑星では、それよりも内側の惑星が、日面通過をする場合があります。たとえば、「土星から見た木星の日面通過」は約8000年に一度起き、次にこの現象が起きるのは西暦7541年3月17日です。「**海王星から見た天王星の日面通過**」は、太陽系でも最も稀な天体現象で、次は西暦**111551年8月16日**に起きます。結構先の話ですが、絶対に見逃さないようにしましょう!空間のスケールも壮大ですが、時間のスケールも途方もないですね。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)